

東日本大震災から5年
自分、家族を災害から守る為に、始めませんか。

自主防災



始めよう

「家族防災会議」

災害はいつ起こるか分かりませんが、「もしものとき」に備えて、まずは家族で防災会議を開いてみませんか。年一回「家族防災会議」の日を決めて家族全員が災害から身を守るためにはどうしたら良いか話し合ってみましょう。

その際、災害が地震なのか大雨なのか、発生時間は昼なのか夜なのか、その状況を具

体的に想定して考えると、より深い話し合いができるでしょう。また、その日は部屋の電気を消して懐中電灯のみで過ごし、備蓄食糧を実際に食べてみるのも良いでしょう。普段からの準備が、いざというときの力になります。

① 家族一人一人の役割分担を決める

・日頃の防災の役割と、災害が起きたときの役割を決めておきましょう。

・高齢者や子供、病人がいる場合は、誰が保護を担当するかなども話し合っておきましょう。

- 火元を確認する人
- ブレーカーを切る人
- 出口を確認する人
- 非常用持出品の管理・持ち出しをする人

② 家屋の安全確認

・家の内外に危険箇所はないか確認しましょう。修理や補強が必要な場合は早急に対応しましょう。

- ・安全な避難経路を確保しておきましょう。
- 家具の転倒・落下防止対策（家具固定）
- 窓・食器棚などのガラス飛散防止対策
- ブロック塀の点検
- ベランダからの落下物防止対策

③ 非常用持出品や備蓄品のチェックと入れ替え・補充

・家族構成を考えながら必要な品がそろっているか確認し合いましょう。

・備蓄食料・水などは3日分程度を目安として、定期的にし新しいものと取り替えましょう。

□ 必要な品の確認

□ 食料・飲料の賞味期限確認

□ 持出用にコンパクトに整理

□ 保管場所の確認

④ 避難場所・避難経路の確認

・地域によっては、地震や洪水、土砂災害など、災害の種類によって避難場所が異なることがあります。

・事前に避難場所となる公民館など公共施設のほか、ご自宅から近くでより安全な場所や、地域で定める避難場所を確認しておきましょう。

- ・避難経路の危険箇所についても話し合い、みんなで下見をしておきましょう。
- ・避難の際は早目の避難を心掛けましょう。
- 避難場所の確認
- 避難経路の確認

⑤ 災害時の集場所や連絡方法・安否確認の方法を確認

・災害時、家族が離れている時や離れ離れになった時の集合場所や連絡方法を決めておきましょう。

・また、安否を確認するためのルールも家族で決めておきましょう。

□ 避難するときは自宅に避難先の張り紙をするなど、メモを残す

□ 遠方に住む親戚や知人宅を連絡先に決めておき、緊急時はそこへ連絡し、安否情報などの集約・確認を行う

□ 災害用伝言ダイヤルについて確認（災害時に電話がつながらりにくいとき「1711」をダイヤルして伝言を録音し、家族などが伝言を再生できるサービスを利用する。）

□ 災害用伝言板について確認（携帯電話サービス会社の、「災害用伝言板」に安否情報を登録し、携帯電話やパソコンなどから確認する。）

● 今すぐできる災害への備え、防災チェックシートの活用

家庭や地域において災害に対する日頃からの心構えの意識付け、安全対策への理解を深めていただくために、家庭用の防災チェックシートを作成しました。「家族防災会議」を行う際も是非、御活用ください。

防災チェックシートは市ホームページ、市役所3階の安全安心課及び新里・黒保根支所に有ります。

問い合わせは、安全安心課防災係（☎内線415）へ。

緊急情報を自動的に受信します 緊急告知FMラジオ (防災ラジオ)



災害時の情報伝達手段の一つとして、「緊急告知FMラジオ」(防災ラジオ)を1台1000円でお配りしています。

このラジオは、電源が入っていない状態でも、緊急情報の信号を受信して、自動的に最大音量で流します。

配布場所は、市役所3階の安全安心課、新里・黒保根支所、境野公民館、広沢公民館、梅田公民館、相生公民館、川内公民館、菱公民館の9か所です。

自宅でFM桐生(77.7メガヘルツ)を受信できるかどうかを確認するための、防災ラジオ試験機とT字型室内アンテナを設置します。

アンテナの貸し出しもありません。

なお、この防災ラジオはFM桐生局のみを受信します。毎月1回、第4金曜日に試験放送を実施しています。

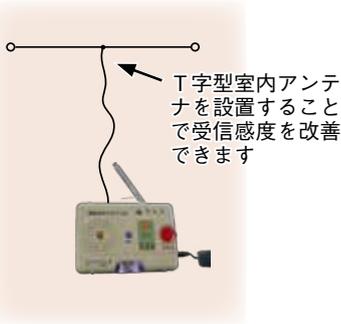
問い合わせは、安全安心課 防災係(☎内線462)へ。

■FM桐生ユーザーサポートデスク(☎207557)

4月からFM桐生ユーザーサポートデスクの受付時間が変わります。

FM桐生の電波や外部アンテナについてなど、技術的なお問い合わせに御利用ください。

受付時間 午前10時～正午、午後1時～午後4時(土、日、祝日を除く)



写真展示

「3.11 大震災の記憶～東日本大震災から5年 あの日を忘れない～」



震災当時の被災地の様子

間もなく、東日本大震災から5年を迎えます。そこで、被災者、被災地への思いを忘れないため、「3・11 大震災の記憶～東日本大震災から5年、あの日を忘れない～」と題した写真展示を行います。

現在、桐生市では岩手県宮古市、陸前高田市、宮城県石巻市、福島県南相馬市に計7人の職員を派遣し、復旧復興支援を行っています。

今回、石巻市職員と桐生市からの派遣職員が撮影した被災直後の石巻市内の様子や復興へ向かっている現在の石巻市の様子を展示します。是非、御覧ください。

期間 3月11日(金)～18日(金) ※土・日曜日を除く

時間 午前8時30分～午後5時15分

場所 市役所玄関ロビー

問い合わせ 安全安心課(☎内線415)



小倉甚主任技師
石巻市建設部建築指導課
確認・開発グループへ派遣

被災地で働く桐生市職員
被災地は、今

宮城県石巻市は、地震と津波により沿岸地域の公共施設や港湾施設が壊滅的な被害を受けました。被災から5年を迎えようとしている現在、生活の拠点となる住居を高台へと移転させる事業や土地区画整理事業が完成し始め、災害公営住宅や宅地の供給が開始されています。甚大な被害を受けてきた石巻市場も、昨年9月に完全再開し、初競りでは競り人や買受人の威勢の良い声が場内に響きました。

今後、地域及び水産業の復興が更に加速することが期待されます。石巻市はまだまだ復興途上の所もありますが、着実に復興の道を歩んでいます。

大規模災害に備えた 消防部隊運用訓練を公開します



群馬県防災ヘリコプター



病院に搬送する訓練

消防本部では、東日本大震災から5年目の節目となる3月11日(金)に、市内での大規模災害を想定した公開訓練を実施します。

倒壊した建物や廃車を利用した交通救助訓練、遠距離送水訓練、群馬県防災ヘリコプターとの連携による高層建物からの救助救出訓練を行います。是非、御見学ください。

期日=3月11日(金)
時間=午後2時~3時30分
場所=旧昭和小学校校庭
問い合わせ=消防本部警防課 (☎47-1704)

防災講演

「激しさを増す災害に向かい合う~これからの桐生の防災を考える~」

日本の防災教育の第一人者であり、下のコラムを担当された、桐生市防災アドバイザーの群馬大学大学院理工学府片田敏孝教授による講演です。

近年の災害の傾向や地域防災の在り方について学びます。

期日=3月9日(水)
時間=午後6時30分~8時
場所=市民文化会館小ホール
問い合わせ=安全安心課 (☎内線415)

東日本大震災から5年。こんなこと
があり得るのかと誰もが自然の猛威に
怯えたのは、ついこの前のことのよう
に思えます。

桐生市でも大きな揺れを感じたこと
もあって、震災直後には水や食料の準
備など、災害に備えることの必要性を
痛感されたことと思います。

しかし5年の月日が流れ、あ
の時の思いは少しずつ薄らぎ、
いつしか備えも不十分な状況
になっていくのではないで
しょうか。

たった5年の月日でも災害
の教訓を伝えることは難しい
と実感します。しかし、最近
の地震や火山活動の活発化、
地球温暖化に伴う気象災害の
激甚化を目の当たりにすると、
それであっても災害教訓は今
にそして将来に活かさねばな
らないと思います。災害教訓
を後世に伝え、災害に強い地
域を創り上げるためにはどう
したら良いのでしょうか。今、
東北の被災地では、語り継ぐ
ことの重要性が言われています。
す。しかし、長年防災の現場を見てい
ると語り継ぐことの限界も感じていま
す。

東日本大震災から5年という月日は、
ついこの前のことと思うのは大人だけ
であり、大人はその教訓を希薄化させ
たととしても心に留めています。しかし、

桐生市防災アドバイザー 片田教授の防災コラム③



東日本大震災から5年

小学校1年生は当時2歳であって、恐
らく記憶にはないでしょう。これから
生まれ来る世代には、実体験のない昔
話になってしまおうのでしょうか。

戦後生まれの私には、戦争体験を
語ってくれた母の言葉に現実感を感じ
ることはできませんでした。経験を伴
わない話は、どうやっても現
実感を持って伝えることは難
しいと思います。時間の経過
はこうして社会全体の災害の
記憶や教訓を急速に希薄化さ
せるのです。

真に教訓を伝えるにはどう
したら良いのか。私の答えは
教訓は語り継ぐのではなく、
実行すること、実行し続ける
ことです。それを見ながら育
つ次世代は、それが当たり前
の育みの環境となって、言わ
ずもがなの習慣として体得す
ることになるからです。

東日本大震災から5年。あ
の時の思いを、備えの継続に
活かすことは、子孫の世代の
安全を育むことでもあるので
す。

片田敏孝氏 群馬大学広域首都圏
防災研究センター長。群馬大学大
学院理工学府教授。専門は災害社
会工学。平成26年4月から桐生市
の防災アドバイザー。